

## IBS 研究発表会

主催：(財)計量計画研究所

日時：2008年7月17日(木) 10:00~12:30

場所：アルカディア市ヶ谷

「平成20年度IBS研究発表会」を2008年7月17日(木)にアルカディア市ヶ谷にて、「IBSフェロースhip発表会」とあわせて開催しました。

約100名の方にご参加いただき、当財団研究員による発表と、皆様との意見交換を通じて、充実した発表会とすることが出来ました。

### ① パーソントリップ調査 (PT 調査) の課題と改善方策に関する考察

中野 敦 (都市交通研究室)

パーソントリップ調査は、日本の都市交通に多大な貢献をしてきたが、近年多くの課題も指摘されている。

これまで当財団が携わってきた調査・研究などの成果をもとに、調査の現状と課題を体系的に整理するとともに、いくつかの改善方策に関する研究成果を示して、今後の展望を試みた。

### ② トランジットコリドーが導く都市再生

大熊 久夫 (総括首席)

前世紀における急激な日本の都市化を支えてきたのは、明治以来営々と整備が続けられてきた鉄道網である。それは、広域的に張りめぐらされた鉄道ネットワークと、結節点である駅周辺での市街地形成といったトランジットコリドーとも云うべき日本特有のネットワーク型都市構造を形成してきた。

現在、本格的な人口減少・高齢社会に突入するに当たり、様々な問題が露呈してきた大都市圏を再度見詰め直し、日本特有のネットワーク化された鉄道網を活用した都市再生戦略を試みた。

### ③ 意見収集・分析のためのインタビュー・システム開発

大塚 裕子 (言語情報研究室)

2005年から始まったパブリック・コメント(意見公募手続き)制度や、近年の市民参画型の政策立案および事業計画プロセスにおいて、多数の市民の意見を収集し、多様な意見を集約・分析するニーズは急速に高まっている。民間においても、web上のブログ、掲示板などに書かれた意見への言語処理技術の活用が企業

評判分析やマーケティング分析に向けて検討されている。これまでの意見収集法では一方向型であり、得られた意見が表層的、建前的なものに留まることも少なくない。

本研究は、アンケートを対話型で実施し、発言に合わせて質問を行うことにより、発言者の意図や理由、根拠、そして背後にある関心や懸念まで掘り下げることが目的としている。

発表では、対話型アンケートの背景技術、現状、課題、そして今後の展望について報告した。

### ④ 地方都市圏における交通と都市構造の検討 (交通土地利用モデルの検討に向けて)

小島 浩 (東北事務所)

都市構造の変化は、交通及び環境、そして生活に及ぼす影響が大きい。

我が国は、人口減少社会を迎え、持続可能な都市の形成に向けて、総合的な観点からの都市政策・交通政策の評価が求められている。又、効果的な政策を選択・実施するにあたっては、都市構造の変動を加味した長期的な観点から、都市構造・交通の相互関係の分析が不可欠である。

発表では、交通と都市構造の研究に関わる当財団のこれまでの取り組みと今後について、紹介した。

### ⑤ 交通需要推計関連システムの構築

名倉 俊明 (情報システム研究室)

道路の交通需要推計における交通量配分は、論理性・客観性の高い利用者均衡配分法の実務への適用がすすめられている。

当財団では、その普及活動をはじめとして、交通需要推計に関する多くの調査研究に携わってきた。現在、自主研究として、これらの蓄積された知見・計算技術等をより活用していくことを目的として、システムの構築・改良に取り組んでいる。

発表では、自主研究の活動成果の中から、利用者均衡配分とそれに基づく分析を支援するシステムの概要を紹介した。

(企画室 中川 裕二)